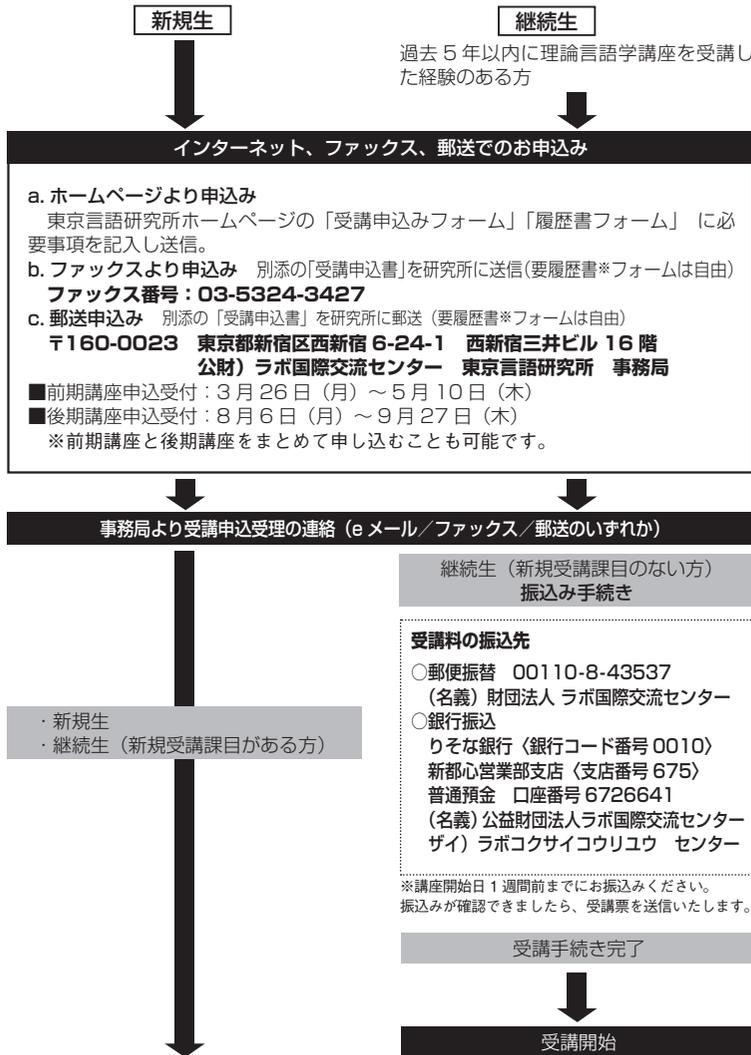


2018年度 理論言語学講座受講にあたって

受講条件 大学教養課程修了程度の一般的な学力があることが望ましいですが、学歴、年齢、国籍を問いません。

受講申込の流れ



開講式 (西新宿三井ビル 13 階 ラボ教育センター会議室 (東京メトロ西新宿駅徒歩 5 分))

新規生および継続生 (新規受講科目がある方) 対象



■前期 開講式 5月13日(日) 13:00~14:00

■後期 開講式 9月30日(日) 13:00~14:00

講座のオリエンテーションを行います。

新規生および継続生 (新規受講科目がある方) は参加してください。受講手続きが完了した継続受講の方も参加可。

面接ガイダンス (西新宿三井ビル 13 階 ラボ教育センター会議室)

新規生および継続生 (新規受講科目がある方) 対象

講師との個別面談をします。当該科目 (講師) を初めて受講する方が対象です (必須)。開講式と同日 14:00 ~ 15:30 (予定)

●ガイダンス目的

講師と受講希望者が事前に直接面談することによって、受講の満足度を最大にすることが一番の狙いです。受講希望者にとっては、当該科目が受講希望に合っているかどうかを判断する機会になります。また、受講希望者にとって担当科目が適切であるかどうかを講師が判断することも目的の一つです。

※ガイダンス日が都合が悪い方につきましては、事前に事務局までご連絡ください。

受講科目の決定、受講料の振込み

講師との面談終了後、受講の可否を決定します。最終的に受講を希望する科目を事務局に伝え受講料の金額を確認します。

1週間以内に研究所指定銀行もしくは郵便局の振込み口座 (左記) に受講料の振込をお願いいたします。

※振込みを確認次第、事務局より受講票をお送りします。1週目は受講票がお手元になくても受講可能です。

受講開始

■入学金・受講料 (消費税込)

・入学金 11,000 円 (新規生のみ)

受講料 (一般)	1 科目あたり	
	半期 (10回)	通年 (20回)
1 科目	¥25,000	¥50,000
2 科目	¥25,000	¥40,000
3 科目	¥20,000	¥40,000
4 科目	¥20,000	¥40,000
5 科目	¥20,000	¥40,000

受講料 (学生)		
	半期 (10回)	通年 (20回)
1 科目ごとに	¥12,500	¥25,000

大学生及び大学院生の受講料は左記の通りです。通信教育課程や科目等履修生は学割対象外となります。

※学生割引希望者は、受講申込書の所定の欄に必要事項を記入してください。面接ガイダンス当日または講座開講 1 週目までに、「学生証コピー」を事務局に提出してください。(Eメール可能) 期日までに提出されない場合は「学割」を取り消す場合もあります。

●受講料は年間で計算します。

半期のみ：3 科目以上で割引 通年のみ：2 科目以上で割引

例) 半期 1 + 通年 1：¥75,000
半期 1 + 通年 2：¥115,000
半期 3：¥70,000

※春期講座は年間で 1 回のみ適応されます。

※その他、講義資料のコピー代 (1 枚 10 円) が別途かかります。(講義科目によって異なる)

講座日および教室

■講義回数 月～金曜、前期10回・後期10回

■講義時間 19:00～20:40 100分（祝祭日は休講）

	前期	後期
月	5/14,21,28, 6/4,11,18,25, 7/2,9,23	10/1,15,22,29, 11/5,12,19,26, 12/3,10
火	5/15,22,29, 6/5,12,19,26, 7/3,10,17	10/2,9,16,23,30, 11/6,13,20,27, 12/4
水	5/16,23,30, 6/6,13,20,27, 7/4,11,18	10/3,10,17,24,31, 11/7,14,21,28, 12/5
木	5/17,24,31, 6/7,14,21,28, 7/5,12,19	10/4,11,18,25, 11/1,8,15,22,29, 12/6
金	5/18,25, 6/1,8,15,22,29, 7/6,13,20	10/5,12,19,26, 11/2,9,16,30, 12/7,14

理論言語学講座 夏期集中 8月10日（金）～12日 語用論
8月31日（金）～9月2日（日）日本語文法と一般言語理論

※講師の都合により、休講となる場合があります。その場合は別途補講をします。

■教室

新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル13Fラボ教育センター内
※東京言語研究所事務局は16階

■休講について

- ・講師のやむを得ぬ事情で休講となる場合は、原則として補講をします。
- ・講義当日に休講が発生した場合は、電話で連絡します。そのため平日昼間の連絡先（携帯電話番号・Eメールアドレス等）を受講申込書に記入してください。
- ・首都圏全域の交通機関の乱れ、天変地異などによってやむを得ず休講する場合があります。この場合は補講は行いません。また、受講料の返金もいたしません。

■レポートの提出について

・講義終了後の成績評価のためのレポート提出（任意）を受付けます。期限は前期講座は8月末、通年講座は翌年1月（課目により異なる）とします。（各講師の指示に従ってください）

その他 講座開講の要件

講座開始の前日（18:00）までに受講生が8人に満たない場合は開講しません。（講座が開講されない場合、当該講座の受講申込み者には連絡します。）

※その際、納入済の受講料はお返しします。

事務局問い合わせ受付時間

月曜日～金曜日 10:00～18:00 ※ 土曜日、日曜日、祝日は事務局は休みです。

受・講・規・定

- (1) 在籍年限は特に定めない。
- (2) 各年度の受講課目数は原則として制限しない。ただし、授業開始後の受講課目変更は原則として許可しない。
- (3) 1課目につき、出席回数が講義実施回数の2分の1以上であることを学期末及第とする。
- (4) 学期末の成績評価は、原則として提出されたレポートに基づいておこなう。成績はA、B、C、Dとし、C以上を及第とする。
- (5) 別途定める基準により、卒業認定された受講者には、本講座の卒業証書を授与する。当該受講生は、以後、随時の講義を担当講師の許可を得て無料で受講することができる。
- (6) 同一課目を2回以上受講した場合には、卒業の際、その最高点をもって当該課目の成績とする。
- (7) 6年連続して出席率が2分の1以上の課目がない場合は除籍する。但し、休学期間は算入しない。
- (8) 休学期間は最長連続6年とする。（休学手続きは、予め事務局に備付けの用紙を用いて行うこと）
- (9) 通年講座で開講後、受講10回以下で退学することが予め判っている者、ならびに後期以降の受講開始を希望する場合は、担当講師の許可を得て受講を認める。その際の受講料は通年受講料の半額に2000円をプラスしたものにす。すなわち、1課目受講につき、（受講料の半額＋税）＋2000円とする。学生割引対象者も上記に準じる。
- (10) 当研究所の都合以外の理由で定められた日時までに受講料納入手続きを完了しない場合、および受講手続き終了後の受講課目変更の場合には、特別手数料として1件につき1,000円申し受ける。
- (11) 講座開講後、既納入諸費用は受講講座不成立の場合を除き、原則として返金しない。

・ 服部四郎賞、理論言語学賞

- (1) 服部四郎賞は学術的に特に優れたと認められる論文（講座のレポート）に対して与えられる。副賞の奨学金は10万円とする。
- (2) 理論言語学賞は講座において成績優秀なものに与えられる。副賞の奨学金は4万円とし、受講者は毎年5人程度をめやすとする。ただし、同一受賞者は課目一分野につき3回までとする。また、半期講座の場合の奨学金は2万円とする。「学生割引対象者」上記の半額とする。

・ 卒業要件

下の規定を満たした者に本講座の卒業証書を授与する。

規定

- ① 通年講義1課目1年を1単位、半年講義1課目半年を0.5単位として、合計12単位を優秀な成績をもって取得すること。
- ② 上記12単位の中に、別表(p.7参照)に記すI群からV群の科目群について下に示す単位数を含むこと。
 - I群から1単位以上。
 - II群から2単位以上。
 - III群から1単位以上。
 - IV群から1単位以上。
 - V群から3単位以上。

「優秀な成績」の基準および、個々の単位の認定の詳細に関しては運営委員会で決定する。ただし、上記は2012年度以降に入学した者に対して適用するものであり、2011年度以前に入学した者については別途これを定める。なお、卒業者は本講座の講義を、担当講師の許可を得て、無料で聴講することができる。

・ 証明書発行手数料

在籍証明書、単位取得証明書、卒業証明書各1通につき1,000円。

〈講義カテゴリー〉 〈講義題目〉(担当者)

I 群	言語学入門	
	言語学概論	
	言語学史	
II 群	音声学	音声学の基礎的知識 (斎藤 純男)
	音韻論	音声学の実践的技能 (中川 裕)
	形態論・語形成論	語形成とレキシコン (杉岡 洋子)
	統語論	
	意味論	意味論の基礎 (酒井 智宏)
	語用論	語用論 (松井 智子)
III 群	生成文法入門	生成文法 I (高橋 将一)
	生成文法	生成文法 II (今西 典子)
IV 群	認知言語学入門	認知言語学 I (西村 義樹)
	認知言語学	認知言語学 II (池上 嘉彦)
V 群	社会言語学	社会言語学 (嶋田 珠巳)
	史的言語学	
	言語心理学	第一言語獲得 (佐野 哲也)
	日本語文法理論	日本語文法理論 (尾上 圭介)
	言語学特殊講義	フィールド言語学 (長屋 尚典)
		実験言語学 (酒井 弘)
		日本語文法と一般言語理論 (三宅 知宏)
		日本語文法：受身文・ラレル文 (川村 大)
		言語哲学 (峯島 宏次)
	言語学特殊研究	文法原論 (梶田 優)

理論言語学講座は、2018年度も、広い研究領域について数多くの課目を開講し、受講者の皆さんの要請に応えたいと考えております。これらの課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体について鳥瞰いたします。

左の表のI～V群の区別は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。2018年度は全体で、前期と後期各6課目、通年4課目、夏期集中2課目の計18の課目を用意しました。I群の課目は、言語学を初めて学ばれる方向けに開講するものです。諸事情により今年度は開講されませんが、言語学は初めてという方には、II群の「音声学」(前期・後期)とV群の「フィールド言語学」(前期)をお薦めします。ともに言語調査のノウハウを学ぶ課目です。

II群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」では、音声の多様性とその後にある仕組みを説明し(前期)、また多様な音声を発音する訓練を行います(後期)。「形態論・語形成論」(後期)では、単語の構造と新しい語が作りだされる仕組みを考察します。「意味論」(後期)は意味に関わる多様な言語理論を背景に、意味研究の基礎を学ぶ課目です。「語用論」(夏期集中)では、関連性理論の基本概念を学びながら言語コミュニケーションの仕組みを探ります。

現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流がありますが、これらを学ぶのがIII群とIV群の課目です。III群の生成文法については「生成文法I」(通年)と「生成文法II」(前期)を開講します。前者では生成文法の基本的な考え方を学び、後者では、生成文法の進展を踏まえて言語の普遍性と多様性の問題を考察します。

IV群の認知言語学にも2課目用意しました。「認知言語学I」(後期)では、Langackerの著作を読みながら認知文法の基礎と最前線を学び、「認知言語学II」(通年)では、日本語の文法・語法を題材に、認知言語学的な思考法を学びます。

V群に属する講座として9つの課目を用意いたしました。「社会言語学」(前期)では、言語接触を切り口として言語の本質を考察します。「第一言語獲得」(前期)は、言語心理学の視点から人間がことばを獲得する仕組みを学びます。「フィールド言語学」(前期)と「実験言語学」(後期)は言語理論を念頭に、それぞれ言語調査と言語実験によって、自ら新たなデータを収集し分析する課目です。

V群にはまた、異なる観点から現代日本語の文法を考察する3つの課目を開講します。まず「日本語文法理論」(通年)ではモダリティをめぐる二つの潮流を考察し、「日本語文法と一般言語理論」(夏期集中)では一般言語理論を視野に入れて日本語の文法構造を分析します。「日本語文法：受身文・ラレル文」(前期)は受身文とラレル文という観点から日本語の構造を探る課目です。

最後に「言語哲学」(後期)では、言語哲学の主要な概念と問題を学び、「文法原論」(通年)では、理論言語学研究の実質的な部分を整理しながら、動的文法理論の構築を進めます。

このように、2018年度も多様な講座を用意いたしました。できるだけ幅広く、さまざまな課目を計画的に受講していただきたいと思います。

(運営委員長 窪田 晴夫)